



1. はじめに

横浜税関宇都宮出張所は、栃木県宇都宮市に所在し、栃木県全域を管轄区域としています。

栃木県については、関東地方北部に位置し、東は茨城県、西は群馬県、南は茨城、埼玉、群馬の三県、北は福島県に接する内陸県で、人口は約196万（全国第18位）、面積は約6,408km²（全国第20位）となっています。

県の東部は、標高300mから1,000mのなだらかな山々からなる八溝山地。北部から西部は、那須連山、日光連山、帝釈山地、足尾山地が連なる山岳地帯で、特に日光連山は、白根山、男体山、女峰山など標高2,000mを超える火山が連なります。また、この北部から西部にかけての山岳地帯は日光国立公園、尾瀬国立公園に指定されており、日光・鬼



・日光東照宮



・中禅寺湖



・華嚴の滝



・男体山

怒川・川治・塩原・那須などの観光地があります。

※栃木県の面積・人口（平成29年11月現在）は栃木県のHPより

交通においては、栃木県を南北に貫いて東北自動車道、国道4号、新4号国道の広域幹線道路が走り、東西には北関東自動車道、国道50号が茨城県・群馬県を結び、鉄道では東北新幹線、JR宇都宮線、東武鉄道が首都東京を結んでいます。

2. 北関東最大の都市、宇都宮

北関東とは、関東地方の北部に位置する茨城県・栃木県・群馬県の3県によって構成される地方で、人口では茨城県が約289万人、栃木県が約196万、群馬県が約195万人となっています。

この中で各市町村の人口ランキングでは、1位から宇都宮市（栃木県）が約52万人、高崎市（群馬県）が約37万人、前橋市（群馬県）が33万人、水戸市（茨城県）が約27万人と続き、宇都宮市が2位以下を大きく引き離して北関東唯一の50万人都市であることから、北関東最大の都市としていわれている由縁です。

※人口は平成29年11月現在（各県HPより）

3. 宇都宮出張所の概要

宇都宮出張所は、昭和29年に栃木県下都賀郡間々田町（現在の小山市）に所在した飼料工場が保税工場として許可され、この工場内に方面事務所として設置されたのが始まりです。

その後、昭和42年には河内郡河内町の飼料工場内に事務所を移転し、昭和43年に政令派出所となりました。

出張所が宇都宮市内に移転したのは、この政令派出所であった時代の昭和49年4月で、当初は電機機器関連メーカーの事務所内に移転しました。宇都宮市では昭和41年から工業団地の整備が進み、平出工業団地、清原工業団地等の内陸型工業団地が整備されたことにより、税関業務の需要が増え宇都宮市内に移転することになったと聞いています。

また、平成元年には、物流の効率化を図ったインランドデポとしての機能も整備が進み、輸出入貨物の内陸通関拠点としての需要に応じて出張所

に昇格するとともに、事務所も宇都宮地方合同庁舎へ移転しましたが、通関処理の電算化が進み事務所も手狭となったため、現在は民間の建屋を借受けて、輸出入貨物の審査・検査の他、出張所管轄内で許可を受けている保税工場6か所、保税蔵置場26か所に係る業務を5名体制で行っています。

ちなみに、現在の庁舎に移転したのは平成8年で、当時は周りが畑で何も無く寂しい場所だったそうですが、今では宅地化が進み、出張所の周りは住宅街となっています。税関と言えば港湾地区をイメージしますが、この宇都宮出張所は、「こんなところに税関…」というイメージで、初めて来られた方はビックリしています。



・横浜税関宇都宮出張所

4. 宇都宮の歴史

宇都宮は、蝦夷平定のためこの地に足を踏み入れた豊城入彦命とよきいりひこのみことが開祖といわれており、これを祀った二荒山神社の門前町として栄え、池沼が多いことから「池辺郷」ともよばれていたとのこと。この二荒山神社の社号が「宇都宮」ですが、「一の宮」が訛ったとか、征夷大將軍が蝦夷平定に向かう際に戦勝祈願を行う社であったことから「討つの宮」といわれていたのが訛った等、宇都宮の語源は諸説あるようです。

11世紀に下野の守護職として中央から派遣された藤原宗円が、二荒山神社の社務職を兼務、同社の社号「宇都宮」を氏とし、この地を統治していくことになり、子孫は鎌倉幕府の有力な御家人として、また多数の歌人を輩出するなど文化人としても宇都宮氏は繁栄していきます。その後、県南部を地場として室町幕府を設立した足利氏や、上杉、北条、佐竹など周辺の有力な戦国大名の影響を受けつつ戦国大名として存続していきますが、1597年22代国綱のとき、豊臣秀吉は突然宇都宮氏を改易処分とします。

江戸時代にはいと、徳川家の譜代大名が入れ替わり宇都宮城の城主を勤めます。家康が日光東照宮に祀られた以降は、將軍家の日光墓参時の宿所として宇都宮城が使われることになりますが、幕末の戊辰戦争により城は焼失してしまいます。現在は、その一部が復元され、市内の観光スポットとなっています。

再現された宇都宮城址公園では、2016年10月に連続爆発事件が発生しました。歴史にはさほど興味を持っておりませんでした。職務柄、日本でもテロ発生かと現地を訪れた小職に、観光ボランティアのおじさんが丁寧に（半ば強制的に）上記の話をしてくれました。宇都宮を訪れた際には、ぜひ宇都宮城址公園の資料室をのぞいてみてください。親切なボランティアさんが、家康の側近であった本多正純が、2代將軍暗殺の企みにより改易となった吊天井事件（史実にはないそうです）など、いろいろな話をしてくれます。

5. ●●のまち宇都宮

宇都宮は、「●●のまち」として観光にも力を入れておりますので、その一部をご紹介します。

（1）餃子のまち

皆さんもご存じのとおり、宇都宮は総務省の家計調査で、1世帯あたりの年間購入額が2010年まで15年連続日本一、2013年も再び日本一の座を獲得してお



・JR宇都宮駅西口前の餃子像

り、静岡県浜松市に抜かれはいたしましたが、宇都宮といえば「餃子」というイメージが強いと思います。

宇都宮が餃子のまちとなったのは、市内に駐屯していた第14師団が中国に出兵したことで餃子を知り、帰郷後広まったことがきっかけといわれています。その後、1993年に市内の餃子専門店など38店舗により宇都宮餃子会が発足し、現在では約80店舗が加盟しています。

また、毎年11月の第1土曜日、日曜日の2日間は「宇都宮餃子祭り」が開催され大勢の観光客にぎわいを見せております。

ちなみに数ある餃子店の味を食べ比べたいという方は、「来らっせ（きらっせ）」というお店があり、ここでは5つの餃子専門店の味を食べ比べられる常設店舗と、宇都宮餃子会加盟33店舗の味を日替わりで食べ比べられる日替わり店舗がありますので、おすすめです。

(2) カクテルのまち

宇都宮は、全国バーテンダー技能競技会大会で、数多くの優勝者を輩出しており、バーテンダーの業界では、その人数とバーテンダーのレベルは、銀座に次ぐほどといわれています。話では、1970年代に老舗のオーナーバーテンダーが「バーテンダーの使命・役割・ステータス・アイデンティティを確立する」と技術向上と人間育成に力を注いだ結果、宇都宮で技術を磨いたバーテンダーが全国大会で史上初の4連覇を達成し、市内のバーテンダー全体のレベルが向上したことによるものとのことです。このような背景から1999年に市内のバーなどにより「宇都宮カクテル倶楽部」が発足し、現在34店舗が加盟してイベントなどが行われています。また、カクテル関連商品も多数販売されていますので、宇都宮にお越しの際は、是非ご購入されてみてはいかがでしょうか。



・宇都宮カクテル倶楽部が監修した、店頭にも多数並ぶ宇都宮カクテル

(3) 自転車のまち

宇都宮では、毎年10月にジャパンカップサイクリロードレースが開催されており、ツール・ド・フランスや、ジロ・デ・イタリアといった、世界の第一線で活躍する選手たちの本気の勝負を間近でみることができます。また、このレースの前日には、宇都宮の中心市街地に設定された短い距離の周回コースを走るジャパンカップクリテリ

ウムが開催されます。この他、プロツアー開幕戦の「宇都宮クリテリウム」や自転車のオフロードレース「シクロクロス」等の多彩な自転車レースが開催されています。そして宇都宮は、日本初の地域密着型プロサイクリロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」の活動拠点にもなっています。

レース以外では、サイクリングルートも整備され、主要なサイクリングルート沿線51か所に、「自転車の駅」が設置されており、自転車修理用工具、空気入れポンプの無料貸し出しの他、スポーツバイク用の駐輪ラックが完備されています。

個人的な感想ですが、やはり自転車のまちと感じるのは、地形的に市街地を中心に平坦地が広がっていることもあり、通勤・通学でも自転車の利用者が多く、特に朝の通学時間帯の自転車に乗った学生の集団の数を見れば納得です。



・市内に設置されている無料の電動空気入れ



・「自転車の駅」の看板

(4) 大谷石のまち

大谷石は、今からおよそ2,000万年前の火山噴出により堆積した凝灰岩で、宇都宮の北西に位置する大谷地区周辺で産出されることから、通称、大谷石といわれています。

この大谷石は塀や蔵などに使われることで広く知られていますが、軟らかく温かみのある独特の質感を生かし、薄く切断して内・外装として利用するほか、加工品や土壌改良剤などとしても活用されており、宇都宮駅西口に設置されている「餃子像」もこの大谷石で作られています。

大谷石については、現在は機械掘りで採掘されていますが、手彫り時代の地下採掘場跡地が「大谷資料館」として公開されており、この地下採掘場跡の広さは、約2万平方メートル（140m×150m）、深さは平均30mあります。壁面には、手彫り時代の「つるはし」の跡が残り、ずっしり

と年輪の重さを感じさせます。坑内の平均温度は8℃前後で、地下の大型冷蔵庫といった感じですが、足を踏み入ると巨大な地下神殿のような景観が広がり、その広さにびっくりします。

また、この地下採掘場跡地は、映画、ドラマの他、いろいろなアーティストのミュージックPVのロケ地としても使用されています。



・大谷資料館



・資料館内部

大谷石が採掘される大谷地区には、大谷寺という寺があり、こちらには平安時代（810年）弘法大師の作と伝えられている千手観音が本尊に彫られています。この千手観音は古くから大谷観音と称され、鎌倉時代には坂東19番霊場となり、多くの人々から崇拝されてきました。

大谷寺には、本尊の千手観音はじめ、脇堂の釈迦三尊・薬師三尊・阿弥陀三尊の合計10尊の石仏が彫られています。

この他、大谷寺のすぐそばに戦後に彫刻された平和観音も見ることができますので、宇都宮に来られた際は、是非大谷地区も観光されてみてはいかがでしょうか。



・平和観音



・大谷寺入口



・本尊

●●のまち宇都宮として4つほどご紹介いたしましたが、この他にも「ジャズのまち」、「プロスポーツのまち」、「クライミングのまち」…等、いろいろと力が注がれていますので、ご興味がありましたら検索してみてください。

6. 最後に

宇都宮には「黄鮒」という郷土玩具があり、これには以下のような伝説があります。

「その昔、天然痘が流行して多くの病人がでた。そこで村人は神に祈り、病気の平癒を願った。或る日信心深い一村民が、病人に与えるため魚を釣りに出かけ、鯉の様に大きな黄色の変った鮒を釣り上げ、これを病人に与えたところ、病気は跡形もなく治った。後年村人たちは、これを神に感謝し、また、病気除けとしてこの黄鮒を型取り、毎年新年に神に供えるようになりました。」（黄鮒の説明文より）

地元で郷土玩具として親しまれている「黄鮒」の基本は張り子ですが、土鈴の他、キーホルダーやストラップ等、多数の関連商品が販売されていますので、こちらも宇都宮に来られた際のお土産にしてみてもいいかもしれません。



・土鈴の黄鮒

【参考文献】

- 栃木県ホームページ
- 茨城県ホームページ
- 群馬県ホームページ
- 宇都宮市ホームページ
- 大谷資料館・大谷寺パンフレット

Kagoshima

『かごつま』～鹿児島～ 明治維新の礎、近代産業の魁、 観光資源の魅力

長崎税関鹿児島税関支署 次長
白男川 克己

元治元年（1864年）の「禁門の変」以降に活躍し、薩長同盟の成立や王政復古に成功し、「戊辰戦争」を巧みに主導した。最後は私学校生徒の暴動から起こった「西南戦争」の指導者となるが、敗戦して城山で自刃した。



1. はじめに

今年は、明治維新150周年の節目を迎えるとともに、NHK大河ドラマで「西郷どん」が放映開始され、国内外からも鹿児島は注目を浴びています。

激動の幕末にそれまでの秩序から脱却し、新しい社会基盤作りを行う改革、これが世に言う「明治維新」であり、この改革の原動力となったのが薩摩藩であります。いち早く海外情勢に精通していた薩摩藩は外国から様々な技術や知識を学びながら積極的な近代化政策を図り、欧米に負けない国づくりを推進しました。この明治維新から5年目に「運上所」という母体から「税関」が生声をあげ、明治30年、鹿児島港に税関監視署が設置され、鹿児島における税関の歴史が始まり、昨年で「鹿児島税関設置120年」を迎えました。

2. 明治維新を駆け抜けた 薩摩の偉人達

薩摩の島津家は外様大名ではありますが、その成り立ちは由緒あり、また叡智ある主君の先見の明もありました。その薩摩藩で生まれ育ち、明治維新の立役者そしてリーダーとしての役割を果たしたのが薩摩隼人の偉人達であります。

さいこうなかつり
西郷隆盛 文政10(1827)年～明治10(1877)年

鹿児島城下で生まれ、下級武士であったが藩主の島津斉彬の目にとまり、お庭方役（庭の世話役）となる。二度の遠島の憂き目にあいながらも

おおくぼとしみち
大久保利通 天保元(1830)年～明治11(1878)年

1868年におきた薩英戦争後のイギリスとの交渉役となり、その後、薩摩藩全体を動かし、倒幕運動を進めていく中心的役割を果たす。

明治になると内務卿を務めるなど、内閣制度発足前の明治政界のリーダーであった。

こまつたてわき
小松帯刀 天保6(1835)年～明治3(1870)年

20歳の時に小松家の養子となり、27歳の若さで薩摩藩家老のちに城代家老となる。西郷や大久保などの働きを助け、藩をまとめ薩長同盟の締結や大政奉還の時も藩を代表した。しかし、志半ばの明治3年、34歳の若さで亡くなった。



こだいともあつ
五代友厚 天保6(1835)年～明治18(1885)年

藩命で長崎に留学し、長崎海軍伝習所において航海、砲術、測量等を学び、その後、上海への渡航や薩摩藩の海外派遣留学生団の一人としてイギリス

リスに留学するなど先進著しい諸外国の商工業や開運技術を積極的に学んだ。

明治になり大阪に最初の商法会議所（現・大阪商工会議所）を設立、自ら会頭となって大阪の商業発展に力を注ぐとともに初代大阪税関長となり大阪税関史の幕を開けた。



3. 歴史に育まれた国際観光資源

鹿児島県は、南北600kmに及ぶ温暖で広大な県土の中に美しい海、山、川、豊富な温泉、優れた自然、多彩な歴史・文化などの観光資源に恵まれています。

桜 島 ～鹿児島のシンボル～

世界的に名高い活火山・桜島は、鹿児島湾の中央部鹿児島市街地の眼前にあり、雄大なその姿は多くの観光客を魅了し、鹿



児島のシンボルとなっている。ときには噴煙を噴き上げて観光客を驚かすこともあるが通常の爆発は生活や観光には安全で支障はない。有史以来何回も噴火しているが、過去には大爆発したこともあり、特に大正3年の大噴火が有名、噴火は約1ヵ月続き、溶岩流は近くの集落を埋め尽くした後、海峡をふさいで東側対岸の大隅半島と陸続きになった。

指 宿 ～美容と健康の温泉リゾート～

薩摩半島の南端に位置する指宿は亜熱帯性の気候に属し、1年を通して陽光あふれる温暖な地域。また、



指宿の海辺を掘ればどこも温泉が湧き出すと言われるほど豊かな温泉に恵まれ、特に世界でもめずらしい「天然砂むし温泉」は有名で国内外からの多くの観光客で賑わっている。



周辺には薩摩富士と称せられ美しい稜線を見せる開聞岳や九州最大のカルデラ湖である池田湖、広大な敷地に花と樹木が美しさを競い、四季を通じて花が咲き乱れている国内最大級の花のテーマパーク「フラワーパークかごしま」など魅力ある観光地が多数あり、多くの観光客が訪れる。

霧 島 ～歴史と文化性の高い観光地～

日本で最初に国立公園に指定された霧島は、最高峰の韓国岳をはじめ、日本建国の神話を今に伝える高



千穂峰など23の火山群からなり、初夏に山肌を紅色に染めるミヤマキリシマ、秋に赤松林の間を彩る紅葉、冬の樹氷など美しい自然環境を誇り一幅の絵巻を見るようである。

また、霧島連山の麓には多くの温泉が湧き、渓谷に沿って風情のあるホテルや旅館が多く軒を並べているほか、乗馬やテニス等のスポーツを楽しむ施設や霧島国際音楽祭が開かれる音楽専用ホール（みやまコンセール）、霧島の豊かな自然の中で優れた現代彫刻作品や自然に触れ親しめる野外美術館「霧島アートの森」等が整備されており霧島高原国民休養地として観光客等に親しまれている。

4. 鹿児島港の生い立ち

鹿児島港は、日本列島の最南に位置する県庁所在地鹿児島市にあって、活火山「桜島」を浮かべた錦江湾のほぼ中央部、薩摩半島側に位置します。真正面に桜島、北東に霧島連山、南に薩摩富士と呼ばれる開聞岳を望む東洋のナポリとも称される我が国有数の景観に恵まれた天然の良港であります。

当時の鹿児島港には、骨粉の原料となる獣骨等が開港の長崎港で通関後、貿易船本船で運搬され、この取締りのため監視署が設置されました。

その後、開港経由での貨物の輸入は不利・不便であるとして、当時の鹿児島商工会議所を中心として開港要望が強まり、大正8年7月に開港指定され、来年で開港100年を迎えます。

開港当時の主な輸出入品は、輸出が中国大陸向けの竹材、木材、かつお節等で、輸入が同じく中国大陸からの獣骨、大豆、豆粕等の飼料、肥料原料でした。鹿児島県の貿易は鹿児島港とともに進展し、その中心的役割を果たしてきました。昭和15年頃から昭和20年にかけては戦争一色となり、鹿児島港は殆ど軍用港として用いられ、貿易は全くない状態でした。

現在は鹿児島港及び鹿児島空港を南九州の玄関口と位置付け、国際クルーズ船入港隻数の増加、国際定期航空路の増便など訪日外国人旅客の急増により観光資源の魅力を極め、地方創生の礎にすることが期待されています。



5. おわりに

前述のとおり、昨年は鹿児島税関官署設置120年、今年は明治維新150周年、そして、来年は鹿児島港開港100年と大きな節目の年が続いています。

因みに執筆者として個人的なことではありますが、私が高校時代に甲子園を目指し、一球入魂でグラウンドにおいて常に土まみれになりながら日々を過ごした母校の鹿児島実業高校硬式野球部も今年で創部100周年を迎えます。

そして今年の夏の甲子園大会も第100回大会となります。百年の伝統を未来へ繋ぐために現役の後輩達に本大会出場を強く期待しています。(キバレ〜！)

